



No.13

学校図書館 司書だより

2012年3月

図書館クイズ

最近、人気のある物語がよく映画化されますが、次の中でまだ映画化されていない物語はどれでしょう。

- ①マジックツリーハウス ②DIVE!
- ③ヒックとドラゴン ④シノダ!
- ⑤ライオンと魔女 ⑥バッテリー

柗と読書

十河 登志子

私が読書することが楽しいと感じたのは、小学二年生から三年生の間です。家にあつた講談社の「真田十勇士」「猿飛佐助」佐々木邦の「苦心の学友」の三冊を毎日のように繰り返し読んでいました。

私は三歳半の時に五人兄弟と父母、祖父母の九人で台湾から引き揚げて来ました。一人千円のお金と写真と着替えの入った行李二つが全財産でした。家族中が必死に生きていたのだと思います。絵本を読んでもらうとか、昔話を聞いて育つといったことはありませんでした。だから自分で字が読めるようになったとき、世界が広がったのだと思います。

「真田十勇士」は真田幸村が、家来の忍術使い霧隠才蔵、猿飛佐助、怪力の三好清海入道、伊三入道などを率いて、大軍の徳川方をさんざん苦しめる痛快さ、大阪城から地下道を掘って、玉造の丘に出城を作り、お城に攻めて来る徳川方に、上から熱湯を浴びせたりして対抗する真田幸村の知恵は何度読んでもおもしろかったです。

しかし、大人になってからも時々思い出してはもう一度読んでみたいと思っていたのは「苦心の学友」です。元家来の家の正三君が、伯爵家の若様の学友に選ばれて、寝起きも学校へ行くのも一緒に生活が始まり、そこで起るいろいろな事柄がユーモラスに書かれ



ていて、心がほっこりと暖かくなりました。

昨秋大阪に帰った折、姉と一緒に天牛書店に行きました。天牛書店は昔からある古本屋さんです。そこで、なんと「苦心の学友」を見つけたのです。長年の夢が叶いました。ルビ付きの文字、旧かなづかい、古い活字で、のほほんとした挿絵も思い出のままでした。物語はユーモアたっぷり、六十年たった今でも十分楽しめました。

四、五年生は神戸で過ごしたのですが、景色のいい山を楽しみ、魅力いっぱい街を楽しみ、家ではヤギを四匹も飼って、家族の結びつきが一番濃い時間を過ごしたところだったからでしょうか、読書の思い出がありません。

六年生は大阪に住んでいましたが、大阪駅前の曾根崎商店街に父の店があつたので、阪急、阪神百貨店、旭屋書店は遊び場の一つで立ち読みばかりしていました。古本屋の天牛書店も地下にありました。山中峰太郎、佐藤紅緑、南洋一郎、江戸川乱歩、吉川英治など少年文学に胸躍らせ、少女小説に夢や希望や人間としての生き方を学びました。私の生涯の一冊とも言える「赤毛のアン」に出会ったのもこのころです。そして父を亡くしたのも。

思春期にはヘルマンヘッセやトーマスマンにはまり、文庫本を楽しみ、大人の本に移行していきましたが、こどもが生まれて絵本に出会い、学校司書として勤めるようになって児童文学、ヤングアダルト文学が大好きになりました。わたしは読書をする楽しみが持てたことを幸せに思っています。

おはなしランド

美濃加茂市中央図書館では、毎週土曜日の午後一時半から二時まで、ボランティアによる読み聞かせ「おはなしランド」を開催しています。

絵本コーナーの赤いじゅうたんのところで絵本の大好きなボランティア会員が、毎週グループごとに絵本や紙芝居を読んだり、時には手遊びをしたりしています。また、夏休みには「夏のお楽しみ企画」、十二月には「冬のお楽しみ企画」として全グループが一緒にペーパーアートや、パネルシアター・劇などの、いつもとはちょっと違ったお楽しみ会もあります。



みなさん、ぜひおはなしランドに
来てください。
代表 河合みゆき

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

山手小学校

山手小学校では、児童のための読書推進活動が活発に行われています。五・六年生児童の委員会活動での企画のほか

に、保護者のボランティア

「ポンポロン」の読み聞かせや劇団「はらぺこ」の特別なイベントなど、読書が楽しめるチャンスがいろいろあります。

今年度特に充実していることは、保護者で構成されたYEN「学習支援ボランティア」の皆さんによる推進活動です。

- ① YEN「学習支援ボランティア」は、読み聞かせボランティア
- ② 図書整理ボランティア
- ③ 図書貸し出し・返却ボランティア



① 読み聞かせボランティア
水曜日の朝読書の時間に、各教室に年間十五回来ていただき、読み聞かせをしてください。対象は、全学年です。
☆児童はこの読み聞かせのために、ランドセルの学用品を急いでひきだしにしまい、わくわくして席に座って待っています。また、選書が重ならないよう工夫してもらっているので、毎回新しいお話と出会えます。

② 図書整理ボランティア
月一回午前中に二時間ほど、図書館の壁面や、棚の上など、楽しいコーナーが誕生します。また、人気本の修理もしてもらえます。
☆季節感いっぱい楽しい図書館に変身させてもらえます。七夕やクリスマスなど、年中行事も味わえます。飾りの仕組みが不思議で、どうなっているのか尋ねる児童もいます。

③ 図書貸し出し・返却ボランティア
今年度始まった新しいボランティア活動です。授業時間を各クラスに割り当て、優先クラスを決めました。
☆児童の中には、自分のクラスのために特別に来て、笑顔で対応してもらっているから、
「またすぐ借りに行きたくなるよ」と評判です。

図書館クイズの答え ③子どもたちに大人気の『シノダ!』(富安陽子)というシリーズものです。お母さんがキツネというこの一家の3人の子どもたちはそれぞれ不思議な力をもっていて奇妙な事件を解決していきます。ぜひ読んでみてください!



えほん

「ちよっとだけ」

瀧村有子作

福音館書店 840円

なつちゃんはおねえちゃんになりました。お母さんはあかちゃんの世話で大忙し。まだまだ

だお母さんに甘えたいなつちゃんですが、がまんして、いろんなことをちよっとづつ、ひとり頑張りやってみます。でも最後になつちゃんがお母さんに「ちよっとだけ」おねだりしたのはなんだったでしょう。元気な子どもの気持ちが伝わってきて胸が熱くなるお話です。

物語

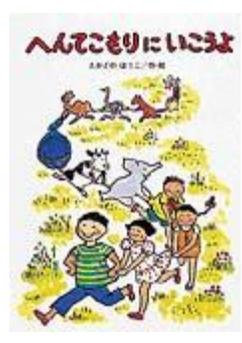
「へんてこもりこいこい」

たかどのほうこ作

偕成社 945円

へんてこもりで、なかよし四人組が動物しりとりをしています。

「うま」に続いて、ぶんたがいい加減に「まるぼうがでてきて!」なんて叫んだら、なんとほんとにしりとりはどんどんすすんでいきます。さて次はなに?とにかくゆかいなお話です。このあとへんてこもりシリーズは4巻続きます。



さあ、どんなゆかいな動物たちに出会えるかな?

小説

「花豆が煮えるまで」

安房直子作

徳間書店 1470円



山奥の宝温泉で、お父さん、おばあさんと静かに暮らす小夜。お母さんは小夜が生まれてすぐ、風になってやまんばの里に帰ってしまったのです。やまんばの血をひく小夜も温泉宿とやまんばの里との境にかかるつり橋を、たった一度だけ風になつて渡り、不思議な光景を見ます。小夜と周りの山の不思議な隣人たちのお話。不思議な世界にトリップできます。素敵なお母さんにもおすすめ、胸がキュン!としますよ。六話の連作短編集。

この本読んでみて!

大人むけ

「おさがしの本は」

門井慶喜作 公文社

1680円



どこでつながっているかがわかりやすく紹介されています。

情報を得るための読書、楽しむための読書…。「読書」に対する思いは人それぞれですが、あなたはどんなときに読書を読みますか?実は「不安で孤独なときこそ、本を読む絶好のチャンス」だそうです。読書と生きる力は